

令和7年度 園評価

モコ末広保育園

A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念	子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる	子どものバックグラウンドや発達を知り、想いを受け止めながら一歩先の手立てを考える寄り添い方ができている。		✓			法人の理念、園目標、園の方針、目指す子ども像を、職員同士共通意識を持ちながら、園の方向性を共有できるようにする。懇談会、親子あそびの会、保育参加会で園の方針を伝えていくことは、保護者との信頼関係を作っていく上で大切な場だと感じる。来年度も子どもの姿、様子、あそび、育ちを伝える場を大切にし保護者との信頼関係を築いていきたい。  子ども達一人ひとりが、やりたいことを見つけ、やりたいことに夢中になり、友達との関わりを楽しみながら、充実した遊びが経験できるように、各歳児の発達を捉えていきたい。  乳児クラス、幼児クラスと分かれてしまうのではなく、園全体で子ども達が、ワクワクドキドキ楽しく遊んでいる姿を捉える。  職員同士がクラスの壁をこえ、風通し良く「もっとこうしたらいいかも」「準備はこうした方がいいよ」とお互いが高め合える存在になっていけるようにしていきたい。園の雰囲気、何でも伝えあえる関係性を作っていけるようにしたい。
	園の基本方針	子ども一人の発達過程や、その子を取り巻く環境の理解に努めその子の成長の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育を行う。安心して子どもを預ける環境を作り親が自らの子育てを語り相談しなくなるような信頼関係を築く支援を行う。未来を生き抜くために逞しい心と身体を作り想像性豊かに考える事が出来るよう保育する	法人の理念、園の方針、園目標、目指す子ども像から「保育」の道筋として「全体的な計画」に沿った保育を展開している。6年間の育ちのポイントを加え園の特色を活かしながら最終的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を目指している。連絡ノート、コドモンのドキュメンテーション、玄関掲示で子どもの姿を伝え保護者と育ちを共有している。		✓			
	園の目指す子ども像	自分も友だちも大切にすること 心も身体もたくましい子 自ら遊びを構ひ・考え・決めて行動できる子	ひとり一人の子ども達が主人公になれる瞬間を保育士が見逃さず子どもの成長過程を保護者と共有できる取り組みを行う。  子どもの姿、興味を理解し、受け止め、一人ひとりの育ちを大切にすること。		✓			
	園の求める保育の視点	身近な自然の中でのびのびあそび・自分を信じやりたいことを見つけやりたいことに夢中になり友達との関わりを楽しむ子	ひとり一人の興味を見逃さず、理解し、やりたいことを見つけられているかな、やりたいことに夢中になっているかな、友達との関わりを楽しみあそびが充実しているかな、を考え遊べる環境を作っている。			✓		
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	チェックリストを使い、職員一人ひとりが保育の振り返りを行う。 クラスMT時に乳児、幼児の職員が子どもの人権について考える時間、話し合う時間を作る。マニュアルを確認する。			✓		「子どもの人権」について、研修時期や研修内容を見直したり回数を増やして、職員一人ひとりが意識して保育を行えるようにする。職員同士お互いに語り合える風土を作っていく。
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切にしたい保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	0歳児から5歳児まで、各クラスどんな活動が行われ、子どもの姿はどうだったか？子どもの興味から活動の広がりはどうだったか？など各クラスのMTで振り返る。0歳児からの積み重ねが5歳児の最終の姿につながっているため、全体的な計画をリンクさせながら保育を展開する。		✓			子ども達の好きなあそび、興味を持ったあそびが保障される時間や環境に重きをおき、子どもの姿やつぶやきから保育士はあそびの広がりを想定し準備をする。目指す子ども像に近づくために保育士が動きかけ「こんな子どもになってほしい」を体現していく。
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつなげるよう計画されている	年長児の遊んでいる姿を見て憧れの気持ちをもち、真似することで、毎年園全体に自然と伝承していく姿に繋がる。年長児が下のクラスにお手伝いに行く「お助けたい」は日常の習慣となり、わらべ歌遊び、ふれあい遊びも園全体で自然な形で取り組む。子ども達が「やりたいあそび」ができるように保育士が子どものつぶやきをひろい、子どもの姿をみて環境を用意することで遊びが広がり、様々な経験ができる取り組みを行う。			✓		様々なあそびを経験していく事で、好きなあそび、得意なものが見つかり子ども達の自信につながる経験を大切にしていく。さらに新しいことにもチャレンジする意欲につながるの、これからも子どものつぶやき、気付き、関心から子どもの興味を見逃さず、遊びへと発展していく事が大事だと考える。
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている育ちや発達に考慮した関わりを行っている	子ども達が「やりたいあそび」ができるように保育士が子どものつぶやきをひろい、子どもの姿をみて環境を用意することで遊びが広がり、様々な経験ができる取り組みを行う。		✓			日々のあそびが、運動の会、モコの会といった行事にもつながっていくので、得意なこと、苦手なことにも、挑戦する気持ちを大事にし、援助していく事を大切に保育していきたい。
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	様々な経験をすることで、子どもの意欲や関心に気付く事ができる取り組みを考えている。		✓			また、子ども一人ひとりが輝ける場所、主人公になれる瞬間を大事にしていきたいと考える。「やりたいあそび」が常に行えるような室内環境を考え、発達や育ちに合った環境、子ども達が主体的に選べる環境にできるように取り組んでいく。
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	リーダーを中心に責任を持って、毎月訓練を行う。 各クラス職員が指示がなくても主体的に判断し、動ける事を目指す。 園内、園外の安全対策を考えプチ研修を行う。職員全員で救命救急講習を受ける。		✓			職員一人ひとりが、自分で状況判断をし行動できるように月の訓練や突発的な訓練を積み重ねていく。訓練後反省課題を考え、次の訓練で改善できるようにする。 一人ひとりの役割分担を明確にし、指示がなくても自分達で行動できる事を期待していきたい。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもたちの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につながらない	日々のヒヤリハットは園全体で共有、周知する取り組みを行うが課題もある。緊急性のある内容は朝MTで共有する。保護者に伝える内容はコドモンで知らせたりおたよりを配信する。		✓			職員一人ひとりがヒヤリハットの内容を意識し、各歳児の事例を園全体で共有できるように仕組みを考える。 各歳児ではヒヤリハットの内容も違うので発達をおさえた改善策を園全体で共有できるように常に意識する。
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対する知識を伝えている	災害訓練は様々な状況を想定し、「子どもの命を守る」ために地震、火災、不審者を想定した内容で消防署、警察にも参加してもらった訓練を考える。毎月の訓練後の反省課題から課題を活かした訓練を考える。職員一人ひとりの反省課題から意識して主体的に動く事を心がけた訓練に取り組む。		✓			様々な状況を想定した訓練では、職員主体で動けるような内容、自分達が子どもを守るという使命感をもち、判断できるようにしていきたい。指示がなくても考え、行動できる職員でなければならない意識を強く持てるようにしたい。 職員同士お互いに声を掛け合い、主体的に行動できる事が子どもの命を守る事に繋がるので、毎月の訓練後の反省を次の訓練に活かせるように職員一人ひとりが意識して訓練していきたい。
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができおり安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている			✓			

保健・食育	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	リーダーが中心となり、勉強会を開き知識の向上に努めている。感染症が発症した時は保護者に伝え共有している。		✓			全職員が感染症に対しての知識を深め、感染症の研修や勉強会に参加し、保護者からの問い合わせにも対応できるようにする。病気に対しての知識を高め、保育士の質の向上を目指す。
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身につけている	保育園の特色の泥の活動、山の活動は自然形で体感や足腰を鍛えている環境になっている。その他にも園内、園外でいつでも何でも挑戦する事ができる子ども達の気持ちを大切に、援助している。		✓			保育園園庭、山、泥のあそびは各クラスで取り入れていき「心も身体もたくましい子」を目指す。乳児、幼児であそびも変わってくるので保育士が活動内容を見極め、援助していく事を大事にしていく。何でも挑戦する気持ちを受け止め、得意な事はもっと得意になり自信が持てるようにする。苦手な事にも挑戦する気持ちを大事にし、子ども達の意欲を見定めて援助していく。一人ひとりの姿、興味を持っている様子を大事にする。
		自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている			✓			
	食育	食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	各クラス野菜の栽培をしながら興味を持つことができる取り組みを行っている。給食室主催の「おかってば」はお手伝いをやりたい子ども達が集まり、自らの意思でお手伝いをしているので大人気の活動になっている。		✓			食育活動では、給食室と、保育室と連携し楽しみながら「食への興味」が持てるような活動にする。大人気の「おかってば」は月齢にあった内容で取り組めるように、引き続き続けていながら調理のお手伝いの楽しさをさらに伝えられるようにする。食と絵本を繋げていながら苦手な食材にも興味を持ち食べられるように援助していく。
発達に応じた食事のマナーを伝えている		各歳児にあったマナーは保育士、栄養士が確認しながら伝えている。		✓				
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切に組織運営ができていく	職員同士、何でも話し合える関係性を大切に。年齢も様々だがお互いに補え合える関係性を目標としている。			✓		乳児組、幼児組で分かれず、クラスの垣根を越えて、何でも言い合える風通しの良い職員同士の関係を目指す。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている	園の方針、方向性からリーダー業務、係の仕事は自分で役割を考え、主体的に業務を全うするように。時間の確保の課題や難しさもあるが、休憩の時間を見直しMTが確保できるように通常の会議は計画的に行われている。行事等の会議は時間の確保が難しいため情報共有不足が課題である。リーダーがリーダーの仕事をする組織作りの重要性を考えていきたい。			✓		リーダーMTを取り入れてリーダー全員が同じ方向性を目指す。時間の組み立てが課題なので、計画的にMTの確保をリーダーが中心となって決めていきたい。
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりできている				✓		職員同士、意見を伝えあえる関係性を大事にする。
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	研修担当が1年間の研修を組み立てた。園の特色を活かすための研修、室内環境、玩具を主に行う。 また、ドキュメンテーションの良さを学び保育士の質の向上にも務めた。			✓		職員が主体的に参加して、少人数でより語り合いやすい環境になるように重視したが、来年度は職員が取り組みやすい内容を検討してリーダーが中心に考える園内研修にしていきたい。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	キャリアアップやその他の外部研修に参加し保育の向上に努めた。			✓		会議時に研修報告を行い、園内で取り入れていける内容を検討し園全体が活性化できるようにしていく。
家庭保護者との連携	保護者支援 家庭との連携	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	登園時や降園時の挨拶は大切にしている。子ども達の様子を伝えながら、保護者の方とコミュニケーションを取ることが大事にしている。懇談会や親子遊びや保育参加会等で保護者の方とコミュニケーションを取りながら信頼関係を築いている。園からは専門家の視点を持ち、伝えなければいけない事は伝えられるように、まずは信頼関係を築く事を大事にしている。		✓			保護者と子どもの様子を見極め、寄り添う部分と専門家としての視点で伝えるべき事を整理して伝えていく。懇談会や親子遊びの会、保育参加会、面談等で保護者が集まる場で園の方向性、子どもの成長、育ちを伝えていく。日々の子ども達の様子を伝えながら、園と保護者が一緒に子ども達の育ちや成長を共感できる関係性をめざす。
		保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまずきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っているような取り組みをしている	月刊絵本の取り組み、ワクワク絵本タイム、貸し出し絵本の取り組みを行う事で、絵本を通じて保護者と子どもの様子、成長について共有できることが増えたように感じる。 毎月の玄関掲示（絵本）でクラスの様子も伝えている。 日々の様子や活動の様子は、連絡帳やコドモンのドキュメンテーションで配信している。		✓			絵本のアンケートには好意的な意見が多くあり、連絡帳にも子どもの成長が書かれていて絵本の取り組みの活動は保護者にも浸透してきていると感じる。玄関におすすめ絵本や季節の絵本を飾ると興味をもって見ている親子が増えてきたので嬉しく感じる。絵本と共に生活やあそびがある保育園の様子をコドモンのドキュメンテーションで配信してきたので、今後も子どもの姿、様子、あそび、育ち等のドキュメンテーションを配信していきながら、保護者と子どもの育ちを共有していきたい。
近隣（園）の学校との連携	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	小学校1年生の授業見学をさせてもらい、また生活科の授業と一緒に交流する機会があり、就学に対する期待や希望を持つことができた。 しかし、公開保育を見学してくれた小学校がなかったので、子どもの様子を伝えるのが用紙や口頭だけになってしまった。 毎年「未広学園」に参加して近隣の小学校との情報交換を行っているが、少しずつだが小学校との交流につながっていると感じる。		✓			毎年の恒例行事として1年生の授業を見学させてもらう事ができるようになった。来年度も引き続き定着させていながら、子ども同士の交流、保育園と小学校の交流ができる場を持つようにしていきたい。 年に一度の未広学園では、積極的に小学校との情報交換、交流について話をしていくようにする。来年度以降、情報交換が出来る場が増えればと思う。
と近隣の連携	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐまれるように、地域の様々な人と場に 関わる機会を大切にしている	老人会やデイサービスへの訪問で、お年寄りを身近に感じふれあい遊び等で交流出来た事が、優しい気持ちを育んでいる環境にもなっている。 近隣の中学校とは職場体験や授業で、積極的な交流ができていくので嬉しく感じる。 また、保育士の仕事を体験してもらえ体験は双方にとって良い関係性になっていると感じる。		✓			前年度に引き続き、老人会へのお誘いがあり年中児、年長児が参加した。地域のお年寄りとの交流は子ども達にとって優しい気持ちが育つ良い経験となっているため、今後も引き続き交流は続けていきたい。中学生との交流は毎年恒例行事となり、子ども達にとっても楽しい交流時間となっている。一緒に遊んでもらう事で、子ども達の新しい一面が見られる場面もあり、今後も積極的に関われる経験を大切にしていきたい。今後も地域に親しまれる園作りを目指していきたい。